

## 記憶の中の西澤静男先生

二十一回生 大久保 千尋

先生のお宅に絵のお稽古に通い始めたのは、小学校2年生の時でした。終戦を迎えた年です。

小さい時から絵を描くことが大好きだった私は、上村松園描く美人画に憧れ松園女史のお弟子になる事が将来の夢でした。子供の心にも伝わる女の人のみが描ける優しさを私も描きたかったのです。

親馬鹿の極みと申しましょうか、幼い私の切なる願いを叶えようと恐れ多くも父は松園女史のお宅に伺いました。

玄関払いを覚悟で行ったのですが、松園女史は弟子をとつていない事を伝えながら「お子さんの気持ちをお大切にあげて下さい」と美人画ではなく花鳥画をお描きになる先生を紹介して下さいました。が、その先生のお宅は余りにも遠く幼い子が通うには無理があるとその先生が豊津にお住まいの西澤先生を紹介頂いたのだそうです。

西澤先生の所には男の子と女の子の兄妹がお稽古に来ていました。この二人は近所らしく、早い時間に来ていて私が行くとすれ違いに帰って行くので言葉を交わすことは有りませんでした。ですので、机の上に置かれた静物や花を一人で黙々と描いていました。

散髪屋さん(そう思ったのです)の様な玄関の扉を開けると「ゆかし、ゆかし」と坊ちゃんを呼ぶ先生の声が懐かしく思い出されます。数え年五つ位でいらしたでしょうか。どちらかと言うと奥様似で先生はそれは可愛がついていらつしました。

お稽古に通って、水彩画を描くときは画用紙を水張りすると描きやすくなる事、日本画の削用と云う筆を使う事などを教えて頂き今もその延長で使っています。

5年生になった時、先生は千里第二小学校に美術の先生として来られました。小学校の玄関に先生の見事な大作「向日葵」の絵が展示されていたのが記憶に有ります。

切望して始めた絵のお稽古なのに、余り真面目な生徒では無かった様です。その当時日本は戦争が終わり激動の時代でした。絵を描く事より時の流れに興味

移ったからだと思えます。千里山から豊津までの一人で乗る電車は私にとつて家では知ることの出来ない情報の宝庫でした。電車に乗ると刻々と世の中が変わつて行くのが見えて来るのです。

焼け跡、傷痍軍人の奏でるアコーディオンの音、闇市、進駐軍、浮浪児、しらみ、DDT、食糧難、チュウインガム、強盗 etc.etc...

これらの現実の情景と文字が飛び交っていた時代でした。来るべき時代のエネルギーに満ち溢れていた時代だったとも思います。

何度かの引越して先生とも全く疎遠になっていました。

何十年か過ぎたある日、先生から銀座のギャラリーでの個展のお知らせを頂き絵ではなく版画の世界に境地を開かれているのを始めて知りました。

ギャラリーには 人形浄瑠璃の木偶の版画で彩られ物言わぬ木偶にどんな思いを託していられるのかと伺うと「何にも喋らへんのがええのや」それ以上お聞きする事は出来ませんでした。

その後2回 お目にかかる機会が有りましたが先生の端正なお顔は少しも変わる事はありませんでした。

奥田さんからお話しを受け、久し振りに遠い昔になつてしまった千里山の記憶の旅をさせて頂きました。

子供の頃の癖は直らない様で随分と寄り道、道草をしながら西澤先生初め懐かしい人達とめぐり会うことが出来ました。記憶の中の誰もが皆んな若くとても元気でした。

西澤静男先生のご冥福を心からお祈りいたします。

### 第十三回総会のご案内

日時 十月三日(土)正午開会

場所 お茶の水 東京ガーデンパレス

会員の皆様お誘い合わせの上ご出席頂きますよう。新しくご参加の方大歓迎です。ぜひともご紹介下さい。ご紹介は事務局までお願いします。